

高等教育研究の進化と発展のために

—日本高等教育学会 学術研究交流集会—

この度、日本高等教育学会の活動の一環として、「学術交流集会」を企画・開催の運びとなりました。学会員・非学会員を問わず、万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

学術研究交流集会—趣旨文

日本の高等教育システムは大きな変動期にある。この変動を読み解き、世界史的な転換期において日本社会の将来を切り開き、現代社会における高等教育の役割を果たす研究が求められている。日本高等教育学会は、高等教育を専門的に研究する集団として成立して20年を経て、専門家集団ならではの諸々の研究課題に従事し、一定の知見を蓄積してきた。しかし、現実の課題以上に大きな課題を抱えている。

現在の日本の高等教育システムは、19世紀後半からの近代化の過程で、欧米諸国の高等教育システムのアイデアを導入したハイブリッドな制度として整備され、20世紀半ばには占領権力によるアメリカモデルを部分的に導入して確立した。

このシステムは、予測を超える大衆化の拡大という内部的要因と、グローバル化での経済競争の拡大と日本の経済力の後退という外部的要因によって不全現象（経済界と高等教育のずれなど）を起こして今に至った。政府は90年代後半から、計画行政の後退、規制緩和の推進などが行ってきたが、構造的な見通しを欠き、国立大学の研究力の衰退などの深刻な事態に至っている。システムの不全を是正しようとして却って問題を引き起こす典型例といえよう。

日本の高等教育研究は、大学紛争を契機に社会科学者の関心が集まり、1960年代後半に大学・高等教育に関する知的好奇心駆動型の研究がスタートし、1970年代に広島大学大学教育研究センターが設置されて制度化が始まり、1979年に一般教育学会が結成、90年代に教養部解体後の大学教育センター設置による大学教員集団が生まれたことを背景に、1997年日本高等教育学会、大学教育学会（一般教育学会の改称）が結成され、研究分野としての体裁を整えた。

しかしながら、上記のような高等教育と環境の不協和と構造的な脆弱化を読み解く高等教育研究自体が大きく立ち遅れた。研究者を再生産する大学院の基盤は劣弱で、研究者集団が実務的使命を持つ組織に多く属するという支持集団の特質を持つため、基礎・応用・開発、理論・実証・実践のバランスを著しく欠いている。高等教育が、個人の発達・成長に対する第三段階教育の役割・機能から、国家レベルの制度まで対象とする複雑・複合系であるにもかかわらず、これらを包摂する分野は高等教育研究に包括されておらず、研究者集団は不十分であると言わざるを得ない。

他方、日本高等教育学会の場合、創設20周年を迎え、この間、高等教育を研究し政策や実践との橋渡しをする専門家集団としての一定の役割を果たしてきた。しかしながら、高等教育の現状を分析しメカニズムを解明するための理論と方法、政策・実践に有効な処方箋を切り出す管理科学的・臨床的知見の追求など、基礎的な方法の探求力を見直す時期にさしかかっている。近年、国際的にも国内的にも、社会科学、教育社会学の方法論が問われ、政策科学の進展など、研究と出版が活性化している現状を踏まえ、高等教育研究においても同様の議論の必要性が生じている。

そこで本集会は、このような内省と現状認識に基づき、高等教育研究のあるべき姿を求め、社会科学・人文学の現代的動向をふまえ、高等教育の現代的課題と方法を論じる集まりとして企画した。

プログラム

○日時／場所

- ・日時：平成30年8月7日
- ・場所：筑波大学東京キャンパス文京校舎，119号室 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1
http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html

○タイムテーブル

13:00～13:10

開会の辞・趣旨説明

第Ⅰ部 基調講演

13:10～14:00

野村 康 氏（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）

司会：村澤昌崇（広島大学高等教育研究開発センター 准教授）

[要旨]

本基調講演の狙いは、高等教育の課題にこだわらず、社会科学における理論・方法を先駆的に切り開いている研究者にご登壇いただき、高等教育研究との接点を探ることにあります。他分野からの摂取だけでなく、高等教育研究のフレームワークとそれが生み出す知的成果を、他の分野に反映させようという意味においても、この対話には大きな重要性があると考えております。

14:00～14:30

質疑応答・議論

14:30～14:45

休憩（昼休み）

第Ⅱ部 シンポジウム

14:45～15:15

小方直幸 氏（東京大学大学院教育学研究科 教授）

15:15～15:45

山田礼子 氏（同志社大学大学院社会学研究科 教授）

15:45～16:15

本田由紀 氏（東京大学大学院教育学研究科 教授）

司会：羽田貴史（広島大学高等教育研究開発センター 客員教授）

伊藤彰浩（名古屋大学大学院人間発達科学研究科 教授）

[要旨]

●学習成果・コンピテンシーに関する高等教育研究の到達点

本シンポジウムでは、具体的な研究課題を設定し、その課題に取り組んでこられた第一人者の方々あるいはその課題に関して一石を投げられてきた方をお招きします。登壇者の方々には、関係する高等教育研究の成果事例を紹介いただき、それら諸研究において、高等教育研究の枠内で専従したからこそ得られた知見はなにか、適切な理論や方法の適用が行われてきたか、足りない論点はなにか、等を議論いただく予定です。

○論点

- ・基礎的理論・方法の応用可能性（基調講演における問題提起を参考に）：高等教育の「固有性」は、専門分野の違いに過ぎないのか、問題設定・課題・文脈の違いによるものなのか理論方法の根源的脆弱性ゆえ、なのか。
- ・大衆（幅広い年齢層）教育機関としての理念的役割からみたときに、学習成果論やコンピテンシー論興隆の陰で、議論が失われた人格形成、完成教育、社会化機能（の議論）、文化（資本）論、平等・格差の観点をどう考えるか。
- ・中等教育との接続（中等教育の論理（完成教育・多様な人生を想定した多様化路線）v.s.高等教育の論理（中等教育は高等教育への準備教育機関たり得ているか?））
- ・コンピテンシー・学習成果論の理論的背景、導入・交流の背景を探る必要性あり／学習内容に対する政府介入の是非・・・
専門家による学習内容の議論は十分だったか

16:15～16:30

休憩

16:30～16:45

講演者からのコメント

16:45～17:30

総括討論

17:30～17:50

会長講話

17:50～

閉会の辞

夕刻 ～

情報交換会

後援：広島大学高等教育研究開発センター